

氏 名：井上 昌子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 202 号
学位授与年月日：2021 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 大久保 暢子（聖路加国際大学准教授）
副査 林 直子（聖路加国際大学教授）
副査 吉田 俊子（聖路加国際大学教授）
副査 鈴木 由美（東北大学病院看護部長）

論文題目：人工呼吸器装着患者に対する「食べられる身体づくりプログラム」の実装に向けた形成研究

博士論文審査結果

本研究は、緊急入院した人工呼吸器装着患者が発病前と同じように速やかに摂食嚥下ができるようになることを目指す、人工呼吸器装着中から開始する「食べられる身体づくりプログラム」の開発を目的とした研究であった。

A 病院の看護師 6 名(救急看護認定看護師、集中ケア認定看護師、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、摂食嚥下認定看護師、急性・重症患者看護専門看護師)、医師 5 名(救急医・耳鼻科医・歯科医)、言語療法士 1 名、理学療法士 3 名から成る計 15 名のプロジェクトチームを結成し、Delphi 法にて、プログラムの枠組みの検討、具体的なケア内容に関するアンケート調査と個別面談、カンファレンスを繰り返し実施し、プログラムに組み込むケアの明確化を行い、「食べられる身体づくりプログラム」試案を作成した。さらに試案を用いて A 病院救命センターにてパイロットスタディを実施した。

結果、対象患者は 14 名(平均年齢 52.2 歳、平均人工呼吸器装着期間 6.0 日)であり、自覚覚醒トライアルの実施 14 例(100%)、口腔ケア実施 14 例(100%)、嚥下スクリーニングの実施 13 例(93%)等の実施率であった(忠実度)。誤嚥性肺炎などの有害事象は全対象患者に認めなかった(100%)。アンケートの結果、プロジェクトメンバー全員(100%)がプログラム内容は安全に実施でき、「適切である」と判断した(適切性)。プロジェクトメンバー 15 名全員(100%)が実施を行った(採択、実行可能性)。達成度は多職種会議の回数 11 回、メール総数 143 通、研究者との個別面談 77 回であった。

以上から、人工呼吸器装着中から開始する「食べられる身体づくりプログラム」の有用性は高く開発に至った。

審査では、結果に研究者の解釈が含まれていることから事実のみを記載すること、特

に多職種会議での意見内容やアンケート結果の数値などデータを用いて記述すること、資料として添付されている Delphi サイクル報告書の内容と結果の文章との整合性に配慮することが指摘された。また考察が事実の羅列となっていることから、結果に対する研究者の考えや捉え方を深め文章化すること、本文・資料全ての図表や引用文献、誤字・脱字を修正し、論文の体裁を整えることが指摘された。修正のための面談を頻回に行い、それぞれの修正は適切に行われ、全審査委員が確認をした。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。